

●法政二高への出前講座しました！

1月21日、川崎市武蔵小杉にある法政大学の付属高校（法政二高）において、当会のメンバーによる出前講座を行いました。学校側からの依頼により毎年この時期に実施しているもので、大学に進学しデザイン工学部の都市環境デザインや建築を学ぶ予定の三年生を対象にしたものです。

当日は古川副理事長から当会の活動と横浜でのLRT導入の動きを紹介し、引き続き小田部理事から「人と環境にやさしい交通を考える」と題し、環境問題や超高齢社会の到来を踏まえ、海外の事例を交えながら公共交通とクルマのそれぞれの役割や自転車の活用など、これからの“交通まちづくり”についての講演を行いました。

大学で都市デザインなどを学ぶ予定の生徒であるため、テーマに対する関心も高く皆さん熱心に聞いてくれました。またこれに関連し、2月に学内で実施されるプレゼンテーション大会で、LRTを活用したまちづくりに関する発表を予定しているグループがあるとのうれしい連絡が担当の先生からありました。

追伸・・・そのプレゼンテーション大会に清水副理事長が出席しました。「安全なまちづくり」を提案するプレゼンテーションで、「防災」「防犯」「エネルギー」と「交通」という視点で「交通」の中で安全や環境、バリアフリーの観点から優れている「LRT」の導入が重要だと発表しました。質問もLRTのことに集中していたのが印象的でした。（報告：小田部明人。追伸：清水康二）



●横浜市、新たな交通システムの検討に3,000万円計上！…日経新聞 1/17

横浜市の2015年度当初予算案は、一般会計が約1兆4900億円で、14年度比5%程度増える見込みだ。14年度からの中期4カ年計画に沿って、都心臨海部の再生・機能強化や、郊外部の活性化、環状道路整備による都市基盤強化などに重点を置く。女性の活躍推進や待機児童対策などの子育て支援にも引き続き力を入れる。都心臨海部の再生では、山下埠頭の再開発の実施計画作りなどに4億5900万円を投じる。回遊性を高めるための新たな交通システムの検討には3000万円、統合型リゾート（IR）の整備検討にも14年度と同じく1000万円の予算を付ける。横浜駅周辺の再開発は8億1300万円で、14年度比約35%増やす方針だ。新市庁舎整備と、それに合わせた関内・関外地区の活性化への予算も増やす。観光や国際会議・展示会などMICEの推進には新施設整備などで約38%増の7億3000万円を計上する。このほか、横浜環状道路の整備には約78%増の339億8500万円と大幅に増やす方針だ。保育所の定員は新設などで2070人増やし、53億4700万円を投じる。放課後児童育成にも力を入れる。人件費などの義務的経費は約8300億円で2%程度増える。歳入では市税を1%程度減の約7090億円と見込む。

（日本経済新聞2015・1/17朝刊）

協力していただけますか。横浜にLRTを走らせるためにあなたにできることは？各チームの活動は「走らせる会」と「横浜の公共交通活性化をめざす会」が共同して行っています。企画チームの会合は、毎月第4水曜日に県民サポートセンター12Fで19時から開催しています。

●事務局

- 渉外関係**
- 横浜市役所担当部局との意見交換会
 - 横浜カーフリーデーへの参加
 - 人と環境にやさしい交通をめざす全国大会への参加・協力
- 組織関係**
- 会の運営
 - 会員の学習 情報提供 最新情報 最新技術 関連法規など 収集
 - 会員拡大

●フォーラム広報チーム

- フォーラムによる啓発
- 夏のLRTフォーラムを開催
 - 冬の公共交通フォーラムを開催
 - 商工会、まちづくり団体、企業、行政などへのPR活動
 - 計画路線沿線の商店街、自治会・町内会などへの出前説明会の実施
 - 定期刊行物による広報
 - ・ブログの更新
 - ・年2回のニュース発行

●企画チーム

- 計画路線の検討
- LRT問答集（Q&A集）など資料・宣伝ツールの作成
- アンケートのまとめや実施
- 事業運営形態や採算性の検討
- 関連研究や知識の提供・共有化

●絵本プロジェクトチーム

- 日本初のLRTの絵本の販売 「子ねことふしぎな電車」無料進呈中
- ご希望の方は、
yokohama-lrt@nifty.com
またはFax 045-433-1415

【編集後記】 2003年に横浜にLRTを走らせる会を設立して10年目の2013年に林文子横浜市長が、今後開発整備する都心臨海部の回遊性向上のためにLRTを導入すると選挙で公約し当選しました。平成26年度に調査予算として750万円が計上され、さらに27年度の予算案には3,000万円を計上したとのこと。ただ現時点では、“LRTや接続バスなどの新たな交通システム”と言っていてまだどちらかは決まっていないとのこと。私たちはバスに比べデザイン性や走行性に優れたLRTが港・横浜のまちを走ることが、観光客の増大につながると主張しています。2020年の東京オリンピックには、全面開通は難しいでしょうが、部分的に先行開業は充分可能だと思います。どこをどのように走らせるのか、運営・運行はどうするのか、注視して行こうと思います。（副理事長：清水康二）



横浜にLRTを走らせる会 NEWS



http://lrt.cocolog-nifty.com/yokohama/

特定非営利活動法人
横浜にLRTを走らせる会
〒221-0835 横浜市
神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター内
レターケース304
TEL:09038016142
FAX:045-433-1415
yokohama-lrt@nifty.com

2015公共交通フォーラム」を開催しました！ シームレスな公共交通の実現に向けて ～利用者視点からの利便性向上を考える～

- 日時：1月31日（土）13:30～16:45
- 会場：横浜みなと博物館・訓練センター第1教室
- 第1部 基調講演

①『ひとが主体の交通体系の推進』
・土井 勉 氏（京都大学大学院 特定工学研究科・医学研究科 安寧の都市ユニット教授）

●第2部 報告
①「横浜市の交通政策およびモビリティマネジメントの取組について」
・國本直哉氏（横浜市都市整備局都市交通課長）

②「乗換え地点における案内表示等についての課題」
・小田部明人（横浜の公共交通活性化をめざす会事務局長）

●第3部 パネルディスカッション

パネリスト

- ・土井 勉 氏（基調講演者）
- ・中村豊四郎氏（アール・イー・アイ株式会社代表取締役）
＜駅案内表示等のサインシステムデザイン開発者＞
- ・太田 恒平氏（（株）ナビタイムジャパン・チーフエンジニア）
＜経路・乗換案内アプリ開発、交通コンサルティング事業者＞
- ・堀添 由紀氏（主婦・「クルマよ、お世話になりました」日本語版訳者）
- ・古川 洋 コーディネーター

横浜にLRTを走らせる会副理事長

※このフォーラムの様子はYou Tubeで見ることができます。「2015公共交通フォーラム」で検索。



1月31日（土）午後、「横浜にLRTを走らせる会」（以下「走らせる会」）は、「横浜の公共交通活性化をめざす会」（以下「めざす会」と共催で、「2015公共交通フォーラム“シームレスな公共交通の実現に向けて”～利用者視点からの利便性向上を考える～」を、桜木町の横浜みなと博物館訓練センターで開催し、90名の参加者がありました。第1部の基調講演では、京都大学大学院の土井勉教授が「ひとが主体の交通体系の推進」と題して、終始京都弁で分かりやすく話されたのが印象的でした。教授は、公共交通を巡る問題意識として、まずは交通量が減少する時代になり、それは人口減少により公共交通の利用者が減少することは必然としても、統計から車の利用者も減少していることは、若い世代が外出しなくなっているのは、車の免許の取得も少なくなっていることや年収の減少に加えて、ネット大好きで交通より通信（携帯やスマホ）を重視して、出歩かなくなっていることなどをあげました。一方で車さえあれば・・・と思っている人も多い状況では事態は悪化するばかりで、そうならないためには交通は手段だから、動く目的が必要で、それをつくり出すことが大事だとし、まちづくり（商業、住宅、医療、交流などの施設だけでなく活動することを含めて）との連携が最も重要だと説かれました。

また、高齢者の3Kは①健康不安②経済への不安③孤独への不安があり、仲間がいるまち、出掛けなくなるまち、魅力的なまち、豊かなコミュニティづくりのためのまちづくりが求められ、負のスパイラルに陥っている公共交通の現状から、市民、行政、事業者が連携して、不便の解消から不安の解消へ転換することやMM（モビリティマネジメント）の継続的な実施こそが重要だと話されました。

（次ページに続く）